

第5回 東井義雄賞「いのちのことば」の 入賞作品発表会・記念シンポジウムを 開催しました



▲東井義雄賞の受賞作品を朗読で披露する受賞者（出席者4人）

2月16日、第5回 東井義雄賞「いのちのことば」の入賞作品発表会・記念シンポジウムを但東市民センターホールで開催しました。

この賞は、いのちの教育を探究し続けた日本を代表する教育者・東井義雄さん（但東町佐々木出身）の遺徳を顕彰し、その理念を後世に伝えるために創設したものです。

今回は、「悩んでいた私にスイッチを入れて目覚めさせてくれた先生のあの一言」をテーマに募集したところ、全国各地から902編の応募をいただきました。

当日は、最優秀賞にあたる東井義雄賞5編を含む入賞作品100編（秀作10編、特別賞10編、佳作75編）を発表し、対象者に中貝市長から賞状や記念品などを贈りました。

また、発表会終了後には、記念シンポジウムとして、高橋小学校3・4年生の児童によるオオサシショウウオ保護活動の取組み発表や、「東井義雄の心を受け継いで」と題したパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッション 「東井義雄の心を受け継いで」

コーディネーターの川見正明さん（元但東町教育長、パネリストの米田啓祐さん（元八鹿小・中学校長）、衣川清喜さん（県立但馬ドーム館長・地元住民）、澤野雅紀さん（高橋小学校教諭、嶋 公治（市教育研修センター所長）の5人により、熱心な討論が展開されました。

村を育てる学力について澤野さんは「子どもたちは、地域の自然を知れば知るほど愛着がわいてきている。川へ行く子どもも増え、生きものに目がいくようになった。家庭でも話題になっている」と話



▲東井さんのエピソードや教育のあり方などについても話があった

し、東井さんと同じ学校で勤務したことのある米田さんは「当時の子どもたちに東井さんの印象を聞いたことがあり、明るいあいさつ・笑顔・ごみをよく拾っておられたとの答えに、こんな生き方も大事なんだと思った」と話しました。東井さんの35年前の詩集を詠まれた衣川さんは「詩集に『再びコウノトリが飛来して八鹿小学校の空を舞うに違いない...』と詠まれてあり、驚いた。先見性を感じ、この環境を守っていきたい」と話しました。

教育委員会の取組みとして嶋所長は「東井さんは盛んに『根』という言葉を使っておられました。教育委員会では、この子どもの根つくりと幹づくり（10・11ページ掲載）についての教育を推進し、展開していきます」と話しました。まとめとして川見さんは「常に子ども側にある教育を目指し、最後まで誠実に過ごされた東井さんの心を受け継いでいきたい」と話しました。

「悩んでいた私にスイッチを入れて目覚めさせてくれた先生のあの一言」

東井義雄賞（5編）

「しようがない」という言葉は忘
れなさい。集中して一日考えたら
きつと解決します。「しようがな
い」事はありませんよ。

安楽健次さん（福岡県田川市・67歳）

へことばを受けたときの状況

中学2年の担任だった若い女先生が、
右足が悪いことを言い訳にして、クラス
の登山行事に不参加を申し出た私の目を
じっと見ながら言った言葉です。

それまでは水泳や体育祭で、障害を理
由になにかと逃げていました。このまま
では運動のみならず、学校や社会生活か
らも「逃げる」人間になってしまうと心
配されたのでしょう。それに障害の程度
から判断して、できることとできないこ
とを私に教え込みたかったのでしょう。

「しようがない」と思い込んでいた私に、
少しでも自分で可能性を見つけさせよう
と、厳しい態度で接してくださいました。
3年の春には鉄棒に挑戦し、大車輪が出
来るまでになりました。登下校を車に頼っ
ていましたが、4キロほどの田舎道をゆっ
くりながら歩くようになりました。剣道
部に入ってさらに気持ちが強くなったと
思います。これ以後、「しようがない」を
口にしたことはありません。

人生において、「ありがとう」と
言うてはいけない場面は一つも
ない。

太田貴子さん（香川県高松市・31歳）

へことばを受けたときの状況

この言葉は、私がカナダに留学してい
たときに、カナダ人の先生に言われた言
葉です。卒業間近であったため、私はそ
の言葉を私たちへのはなむけの言葉と受
け取りました。

「ありがとう」は、別に何かをいただ
いたときしか使えないのではない。お金
を払い、それと引き換えに品物を受け取
るとき、別れ際、さよならの代わりに、誰
かが天国へ旅立つとき……「ありがとう」
を言われて腹を立てる人はいません。

先生は話の最後にこんなことをおっ
しゃいました。「人を指差すときに、3
本の指が己の方を向いているように、自
分の唇から発した言葉は、自分の耳で聞
いている」と。

それ以来、私は人生のいろいろな場で
「ありがとう」を言い、
この唇でできるだけやさしくあたたかい音楽
（ことば）を奏でようと思
い、努力しています。



看護する人の辛さ、悲しみよりも
看護される人の辛さ、悲しさは遥
かに大きいのです。

長坂隆雄さん（千葉県船橋市・77歳）

へことばを受けたときの状況

92歳の母の看護に明け暮れて、肉親故
の我侪、勝手と思える言動に、時には邪
険に振る舞い、言葉を荒げる事もあった
が、寺の住職から言われた言葉に、はっ
と目の覚める思いがした。

いろいろな障がいを持っていて
も、それは私の個性だと思ふ。こ
の個性を認め合う社会を育てる
努力を惜しまないでほしい

小田虎賢さん（明石市・19歳）

へことばを受けたときの状況

陸上競技を続けている私は、車いす
レースの世界的競技者と出会うことが
あった。いろいろな話をして、その時教
えてもらった生き方に対する考えである。
車いすでの生活というハンディを克服し
て、競技を続けるアスリートとしての生
き方に感動をした。車いすで走り続ける
ことが、多くの障がい者を理解する世の
中をつくることにつながると、世界中を
飛び回っている積極的な生き方に驚いた。

陸上競技の種目の中に、車いす競技とい
うものが普通に存在する社会であること
が、彼の夢であると聞いた。
障がいの有無に関係なく、競技スポー

ツやレクリエーションスポーツを自由に
選ぶことのできる社会づくりを実現する
生き方をしようと考えている。

一日の努力を一枚の紙として横
から見ると見えない。でも百百分
の努力の紙を毎日積み重ねてい
くとやっとな形として目に見える
んやで。

安広美海さん（神戸市・16歳）

へことばを受けたときの状況

私が中学生の時に、今通っている高校
に練習させてもらいにきました。その
ころ大きな大会を目前に控えていたにも
かわらず、顧問には怒られてばかり、
練習でもミスを連発していました。

そんな時、今の顧問からこの言葉を聞
き、たった一日やっただけじゃ目に見え
てなにもわからない、一枚の紙のように
薄い小さなことでも毎日続けていけば、
その何日か後に自分に返ってくるんだな
と思ひ知らされました。

その日から私は小さなことをコツコツ
頑張るようにし、いい成績も残せました。
これがきっかけで、私はこ
の先生について行こうと思
い、今の高校に入学し、部
活に励んでいます。



入賞作品100編は、書籍にまとめ、
1冊600円で販売しています。希望
の方は、東井義雄記念館（☎21-90
36）へ申し込みください。